

# 北斎かわらばん

すみだ北斎美術館ニュース

第9号

平成22年(2010年)6月発行



## 富嶽三十六景

### 山下白雨

富嶽三十六景の中で「凱風快晴」(通称・赤富士)や「神奈川沖浪裏」とともに、人気が高い作品のひとつに「山下白雨」があります。白雨とは急に降ってくる、にわか雨のことです。

すみだ北斎美術館の公式シンボルロゴマークのモチーフとなったのが「山下白雨」の中に描かれている稲妻です。

富嶽三十六景シリーズの中で、富士山特有の美しい姿のみを描いた作品は「凱風快晴」と、この「山下白雨」しかありません。しかしこの二枚は対照的な作品として知られています。

「凱風快晴」は、朝焼けに染まる静かで穏やかな富士山の姿を描いたものであるのに対して、「山下白雨」は、山頂こそ良い天気です

が、すでに夏の入道雲が沸き起こり、裾野には稲妻が光っているという、動きを感じさせるものとなっています。

北斎はこの一枚にいろいろな天候をも超越した存在として富士山を描きました。山頂から中腹にかけての厳しい山肌には、美しくも冷



「富嶽三十六景 山下白雨」

たい白雪を積もらせ、空に沸き立つ入道雲は風を募らせ、すでに夕闇に包まれた裾野では赤く光る稲妻が走り、激しい雨を降らす。この大自然の営みにおいても何ひとつ動じることもなく毅然とそびえ立つ富士山の姿を、北斎は力強く画面一杯に描きました。

この作品を見た人は、静かに力強く存在している富士山に圧倒されるのではないのでしょうか。

北斎が富嶽三十六景を描いた時は、七十歳を超えていました。身体は老いを重ねているのに、精神は益々研ぎ澄まされ、次々と力作を生み出していきました。

【発行】  
墨田区区民活動推進部  
文化振興課  
北斎美術館開設担当  
(墨田区役所1階)  
☎03-5608-6115

【編集協力】  
(財) 墨田区文化振興財団  
北斎担当

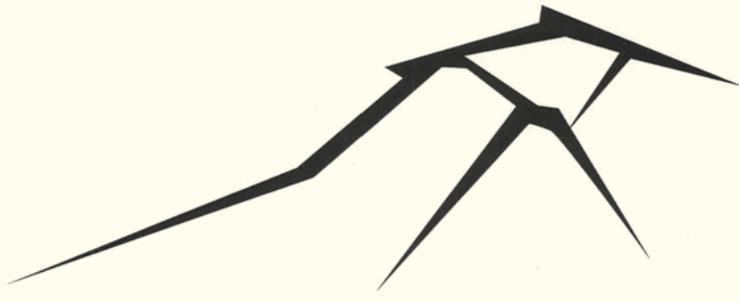
すみだ

すみだ

## シンボルロゴマーク完成

このほど、すみだ北斎美術館の公式シンボルロゴマークが完成しました。

このロゴマークは、公募の最優秀賞作品（制作・高瀬清二氏）に一部補正を加えたもので、補正は、日本グラフィックデザイナー協会会長で、すみだ北斎美術館公式シ



## すみだ北斎美術館

ンボルロゴマーク審査会の委員長であった勝井三雄氏が担当しました。

力強くシャープな印象のマークは、北斎の代表作である富嶽三十六景の「山下白雨」に描かれた稲妻をデザイン化したものです。一瞬の閃光として天空にほとばしる稲妻は、大きさや広がりを感じさせ、世界に向けて発信するという美術館の理念につながるとともに、北斎の画業に対するひらめきやエネルギーをも感じさせるものです。

ロゴ（文字）は、マークとの調和と読みやすさを考慮したうえで、シンプルながらも格調の高さを表現したオリジナルの書体です。制作者と補正者のアイデアとアイデアが融合して完成したロゴマークは、ロゴだけ、あるいはマークだけが突出して目立つことなく、全体として見た人に深い印象を与え、また、美術館の活力を象徴するものになりました。

## 発掘調査で出土した遺物の紹介



発掘調査の様子（現在は埋め戻されています）

遺構や出土遺物は、残存する屋敷図面などと照らし合わせて往時の屋敷内の建物配置や生活状況を知るうえで、非常に重要な手掛かりとなります。

区では、これらを地域の貴重な財産として継承・活用していくために、今後、文献調査なども含めた詳細な調査を行い、報告書を刊行する予定です。



木樋（上水施設）

本年一月から三月にかけて、すみだ北斎美術館の建設地で実施した埋蔵文化財発掘調査では、弘前藩津軽家の上屋敷の一部に関わる遺構が数多く見つかりました。

遺構からは「穴蔵」と呼ばれる地下室のほか、土蔵跡や上下水施設などが検出されました。また、小皿や徳利、津軽家の家紋の入った鬼瓦といった遺物も出土しています。



左：鬼瓦



右：津軽家の家紋（工藤寛正編『江戸時代全大名家事典』東京堂出版）